

令和5年度 第2回教育課程編成委員会

令和5年11月16日(木)10:00  
国際園芸アカデミー 研修室 A

1 開会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 検討事項

(1) 令和5年度前期(新カリキュラム)の実施状況について

資料1・2

・令和5年度前期 授業評価アンケート結果

資料3・4・5

・分野別授業の実施状況

資料6

①「生産マネジメント実習Ⅱ」「生産課題解決演習Ⅱ」

②装飾技術スキルアップ実習

③造園総合実習

④基本簿記

(2) 令和6年度 ぎふワールド・ローズガーデン(以下、WRG)における授業開講について

・WRG 活用計画

資料7

5 授業見学

・「M2 卒業研究・卒業制作」

6 閉会

令和5年度 第2回 国際園芸アカデミー 教育課程編成委員会 委員名簿

	分野	所属・役職	氏名	備考
委員長		岐阜県立国際園芸アカデミー 学長	今西 良共	
委員	学識経験者	岐阜大学応用生物科学部 副学部長	山田 邦夫	出席
委員	花き生産業界(切花)	ユーティローズ 代表者	宇野 充辰	(欠席)
委員	花き生産業界(鉢花)	小関園芸 代表者	小関 正司	出席(ZOOM)
委員	花き装飾業界	ユリフラワーデザインスクール 副総長	内山 友樹	(欠席)
委員	造園緑化業界	(株)庭萬 代表取締役社長	稲垣 和美	出席
委員	流通業界	名古屋園芸株式会社 代表取締役	小笠原 誓	出席(ZOOM)
委員	行政機関	岐阜県農政部 農産園芸課長	大橋 薫子	(欠席)
委員		岐阜県立国際園芸アカデミー 教授	臼田 浩通	
委員		岐阜県立国際園芸アカデミー 教授	相田 明	

岐阜県農政部 農産園芸課 花き・農業環境対策監	青谷 英樹	出席(ZOOM)
-------------------------	-------	----------

役職	氏名
岐阜県立国際園芸アカデミー 顧問	古澤 達也
岐阜県立国際園芸アカデミー 副学長	小野寺 誉
岐阜県立国際園芸アカデミー 講師 ＜花き装飾コース＞	林 誠
岐阜県立国際園芸アカデミー 准教授 ＜造園緑化コース＞	新井 俊宏
岐阜県立国際園芸アカデミー 准教授 ＜マネージメント＞	佐藤 智茂
岐阜県立国際園芸アカデミー 教務課長	山本 芳範
岐阜県立国際園芸アカデミー 教務係	長谷川 淳



## 資料1

## 2023年度（令和5年度）マイスター1年生開講科目

## ○1年前期 開講科目

No.	分野	区分	科 目 名	担当教員	時間数
1	花き生産流通	必修	栽培・生産論	白田	30
2	花き生産流通	必修	植物生理学	前田	30
3	花き生産流通	必修	花き生産実習	白田	90
4	花き生産流通	必修	園芸流通概論	井上	30
5	花き装飾	必修	園芸装飾実習Ⅰ	吉田	30
6	花き装飾	必修	フラワーデザイン実習Ⅰ	林	60
7	花き装飾	選択	3級園芸装飾技能検定対策実習	林	30
8	花き装飾	選択	3級フラワー装飾技能検定対策実習	安保	60
9	造園緑化	必修	造園学概論	相田	30
10	造園緑化	必修	花修景実習Ⅰ	相田	30
11	造園緑化	必修	造園施工・管理実習Ⅰ	新井	60
12	造園緑化	選択	3級造園技能検定対策実習	新井	45
13	マーケティング	必修	商品動向リサーチⅠ	井上	15
14	植物管理	必修	植物管理基礎実習Ⅰ	前田	60
15	国際性	必修	Global Communication in Horticulture Ⅰ	大脇	30

必修	495
選択	135

## ○1年後期 開講科目

No.	分野	区分	科 目 名	担当教員	時間数
16	花き生産流通	必修	イベント販売実習	井上	15
17	花き生産流通	選択	生産マネージメント実習Ⅰ	白田	60
18	花き生産流通	選択	生産課題解決演習Ⅰ	白田	45
19	花き装飾	選択	園芸装飾実習Ⅱ	吉田	30
20	花き装飾	選択	フラワーデザイン実習Ⅱ	林	60
21	造園緑化	必修	花修景実習Ⅱ	相田	30
22	造園緑化	選択	造園施工・管理実習Ⅱ	新井	60
23	造園緑化	選択	測量実習	新井	30
24	造園緑化	選択	製図実習	新井	30
25	造園緑化	選択	CAD製図実習	相田	30
26	マーケティング	必修	商品動向リサーチⅡ	井上	15
27	マーケティング	選択	商品開発演習	井上	30
28	マネージメント	必修	キャリアデザインⅠ	佐藤	30
29	マネージメント	必修	起業・経営シミュレーション	佐藤	30
30	文化・利用	選択	園芸色彩学	相田	30
31	文化・利用	選択	いけばな	片倉	15
32	文化・利用	選択	園芸福祉論・実習	相田	30
33	植物管理	必修	植物管理基礎実習Ⅱ	前田	30
34	国際性	必修	Global Communication in Horticulture Ⅱ	大脇	30
35	就業体験	必修	インターンシップⅠ	各コース担当教員	120

必修	300
選択	450

2023年度（令和5年度） マイスター科 2年生開講科目

○ 2年前期 開講科目

No.	分野	区分	科目名	担当教員	時間数
1	花き生産流通	選択	生産マネージメント実習Ⅱ	白田	120
2	花き生産流通	選択	生産課題解決演習Ⅱ	白田	60
3	花き生産流通	選択	基礎育種学	前田	30
4	花き装飾	選択	フラワー装飾演習	林	60
5	花き装飾	選択	ウェディング実習	林	30
6	花き装飾	選択	フェルナーネラル実習	林	30
7	花き装飾	選択	装飾技術スキルアップ実習	吉田	45
8	花き装飾	選択	2級園芸装飾技能検定対策実習	林	30
9	花き装飾	選択	2級フラワー装飾技能検定対策実習	吉田	60
10	造園緑化	選択	花修景実習Ⅲ	新井	30
11	造園緑化	選択	造園施工・管理実習Ⅲ	新井	60
12	造園緑化	選択	造園総合実習	新井	90
13	造園緑化	選択	2級造園技能検定対策実習	新井	45
14	造園緑化	選択	造園工学・施工論	新井	30
15	マネージメント	選択	SNSプロモーション	井上	30
16	マネージメント	必修	キャリアデザインⅡ	佐藤	30
17	マネージメント	選択	基本簿記	佐藤	30
18	文化・利用	選択	園芸文化研修	今西	30
19	文化・利用	選択	盆栽実習	福本	15
20	植物管理	必修	植物管理基礎実習Ⅲ	前田	30
21	国際性	必修	海外視察研修	吉田	90
22	就業体験	選択	インターンシップⅡ	各コース担当教員	60
				必修	150
				選択	885

○ 2年後期 開講科目

No.	分野	区分	科目名	担当教員	時間数
23	花き生産流通	選択	スマート農業研修	白田	15
24	花き装飾	選択	フラワービジネス演習	吉田	15
25	造園緑化	選択	造園積算・施工管理演習	新井	15
26	造園緑化	選択	公園・緑化概論	今西	15
27	マネージメント	選択	植物ビジネス論	井上	15
28	就業体験	必修	インターンシップⅢ	各コース担当教員	150
29			卒業研究・卒業制作(花き生産コース)	白田	240
30	課題解決	必修	卒業研究・卒業制作(花き装飾コース)	吉田	
31			卒業研究・卒業制作(造園緑化コース)	相田	

必修	390
選択	75





# 授業評価アンケート結果の見方

## 資料 3

### 1 到達度

・シラバスに記載されている、授業ごとに複数設定される到達目標<sup>(※)</sup>に対して、学生がどの程度習得できたかを自己評価したもの。

(※) 到達目標は、1つの授業に対して最大4つまで設定。

・学生は、以下の【評価基準】を基に、S・A・B・C・Dの5段階で到達目標ごとに自身の到達度評価を実施。

集計時は、[S=95、A=85、B=75、C=65、D=55]の代表値に置換え、学生個人の『到達度』を算出。

・『到達度平均』は、到達目標ごとの受講者全体における到達度平均値。

・『到達度総平均』は、授業ごとの「到達度平均」の平均値。

#### 【評価基準】

	100	90	80	70	60	0
代表値	95	85	75	65	55	
	<b>S</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	<b>D</b>	
	完全に 習得できた	十分に 習得できた	習得できた	概ね 習得できた	習得 できなかった	

#### ★科目別到達度総平均の分布

(単位：科目)

	S	A	B	C	D
M1開講授業 (15科目)	0	13	2	0	0
M2開講授業 (22科目)	0	22	0	0	0

- ・造園学概論 (79.4)
- ・Global communication in Horticulture I (79.5)

※授業別の到達目標は、別紙4 (M1)、別紙5 (M2) 参照。



## 2 授業満足度

・下記の観点で、学生が総合的に判断した満足度。

- ・授業のテーマは明確に示されていたか
- ・授業の難易度は適切であったか
- ・教科書や配布資料、パワーポイントなど理解できるものであったか
- ・質問や相談ができるよう配慮されていたか
- ・授業を通して、新しい知識や技術を得られたか

・ [ 十分満足 (4) ・ 満足 (3) ・ 普通 (2) ・ 不満 (1) ] の4段階で評価。

・ 集計時は、受講者全体の満足度平均を算出。

<b>4</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
十分満足	満足	普通	不満

### ★科目別満足度平均の分布

(単位：科目)

	4 (十分満足)	3 (満足)	2 (普通)	1 (不満)
M1開講授業 (15科目)	0	13	2	0
M2開講授業 (22科目)	0	22	0	0

- ・ 造園学概論 (2.8)
- ・ 花修景実習 I (2.9)

※授業別の満足度は、別紙4 (M1)、別紙5 (M2) 参照。



令和5年度前期授業評価アンケート結果 (M1)

資料 4

No.	授業名	履修区分	分野	時間数	担当教員	受講者数	到達目標①		到達目標②		到達目標③		到達目標④		到達度 総平均	授業満足度 平均
							到達度 平均	目標	到達度 平均	目標	到達度 平均	目標	到達度 平均	目標		
1	栽培・生産論	必修	花き生産流通	30	白田	22	80.9	病害虫対策について理解する。	81.8	かん水システムの特徴について理解する。	86.4	岐阜県育成花きの特性を理解する。	80.5	82.4	3.1	
2	植物生理学	必修	花き生産流通	30	前田	22	83.2	植物体の構造およびその制御方法を理解する。	80.9	植物の代調およびその制御方法を理解する。	80.0	花の老化の仕組みおよび老化を防止する方法を理解する。	84.1	82.0	3.1	
3	花き生産実習	必修	花き生産流通	90	白田	22	84.5	花きの栽培管理を習得する。	85.5	花きの栽培管理を習得する。	84.1	チームワークの重要性を理解する。	93.6	85.7	3.3	
4	園芸流通概論	必修	花き生産流通	30	井上	22	82.3	国内外の花きの消費状況や生産状況を理解する。	83.6	卸売市場や農協の中間業者の役割と機能を理解する。	84.5	物流や園芸資材に関する最新事情を理解する。	88.2	83.4	3.1	
5	園芸装飾実習Ⅰ	必修	花き装飾	30	吉田	22	81.8	生活空間での植物の装飾方法および家庭園芸での植物の維持管理方法を理解する。	82.3	制作した寄せ植えのポット・グッド・カポットなどを長期メンテナンスすることによって、管理方法を習得する。	81.8	園芸装飾実習試験のデモンストレーションを通し、観葉植物を使用した装飾方法を習得する。	80.9	81.7	3.1	
6	フラワーデザイン実習Ⅰ	必修	花き装飾	60	林	22	84.5	フラワーアレンジメントの基本技術を習得する。	82.7	花束の基本技術を習得する。	85.9	フラワーデザインについての基本知識を習得する。	84.4	84.4	3.3	
7	3級園芸装飾技能検定対策実習	選択	花き装飾	30	林	10	87.0	3級園芸装飾技能検定合格水準の技術を習得する。	86.0	3級園芸装飾技能検定合格水準の園芸装飾に関する知識を習得する。	89.4	実技試験内容を繰り返し制作練習することで装飾技術を習得する。	88.3	88.3	3.5	
8	3級フラワー装飾技能検定対策実習	選択	花き装飾	60	安保	8	88.8	3級フラワー装飾技能検定の合格水準の技術を習得する。	87.5	実技試験内容を繰り返し制作練習することで基礎的な技術を習得する。	87.5	学科試験のためのフラワーデザインに関する知識を習得する。	87.9	87.9	3.6	
9	造園学概論	必修	造園緑化	30	相田	22	78.2	造園の概念について理解する。	78.2	造園の概念について理解する。	82.3	実際に造園空間を見学することにより、様々な造園空間に対する知見を深める。	79.1	79.4	2.8	
10	花修景実習Ⅰ	必修	造園緑化	30	相田	22	80.9	植物の植栽管理を通じて、継続的に記録することができる。	80.9	花壇の計画ができる。	80.0	花を使った修景空間の調査調査を報告することができる。	80.6	80.6	2.9	
11	造園施工・管理実習Ⅰ	必修	造園緑化	60	新井	22	84.5	造園植物(樹木、下草、芝生など)の生育特性を踏まえた管理方法を習得する。	84.5	造園施設(竹垣、敷石、レンガ舗装など)の施工方法を習得する。	87.7	グループでの実習作業を行う際に、コミュニケーションを取りながらチームワークの重要性を理解する。	85.6	85.6	3.4	
12	3級造園技能検定対策実習	選択	造園緑化	45	新井	7	89.3	学科試験合格水準に達する知識を習得する。	87.9	実技試験(製作等作業試験)に関する規定時間内に規定の寸法どおりに完成することができる。	87.9	実技試験(判断等試験)に出題される樹木を判別することができる。	88.3	88.3	3.6	
13	商品動向リサーチⅠ	必修	マーケティング	15	井上	22	77.7	春夏秋冬、上位150品目について、学名や原産地や特徴や管理方法などを知る。	87.3	図鑑やインターネットを利用した植物の調べ方を知る。	85.0	植物の写真的撮り方の基礎を知る。	83.3	83.3	3.0	
14	植物管理基礎実習Ⅰ	必修	植物管理	60	前田	22	85.0	春・夏期における植物の種類の異なる管理方法の違いを理解する。	85.0	春・夏期における海水技術を習得する。	85.0	春・夏期における温室の管理技術を習得する。	85.0	85.0	3.3	
15	Global Communication in HorticultureⅠ	必修	国際性	30	大脇	22	80.9	英語の基本的な文法を反復練習にて習得する。	82.3	自己紹介、挨拶等スムーズに話せることができる。	79.5	他国について学ぶ中で、自国や自身自身への理解を深める。	75.5	79.5	3.0	



令和5年度前期授業評価アンケート結果 (M2)

資料5

No.	授業名	履修区分	分野	時間数	担当教員	受講者数	到達目標①		到達目標②		到達目標③		到達目標④		到達度総平均	授業満足度平均
							目標	到達度平均	目標	到達度平均	目標	到達度平均	目標	到達度平均		
1	生産マネージメント実習Ⅱ	選択	花き生産流通	120	白田	5	施肥設計や品目、品種設定ができる。	82.0	温室の栽培管理ができる。	90.0	1年生指導を通じてリーダーシップを理解する。	82.0	作業内容のふり返りと必要な改善項目の報告ができる。	80.0	83.5	3.0
2	生産課題解決演習Ⅱ	選択	花き生産流通	60	白田	5	適切な課題研究テーマと調査内容を選択できる。	83.0	課題研究を通じて課題解決力を身につける。	81.0	課題研究内容を総括し、正しく伝えることができる。	81.0			81.7	3.2
3	基礎育苗学	選択	花き生産流通	30	前田	9	植物の運搬の仕組みを理解する。	85.0	様々な育苗の方法について知る。	83.8	交配育種に必要な基本的知識および技術を習得する。	83.8			83.8	3.3
4	フラワー装飾演習	選択	花き装飾	60	林	9	空間を花で飾る技術を習得する。	86.1	花き装飾の歴史的かつ文化的行事などの知識を習得する。	85.0	花の原価について知る。	83.9	フローリストとしての発想力や応用力を習得する。	83.9	84.7	3.3
5	ウェディング実習	選択	花き装飾	30	林	8	デザイン力、提案力、応用力を習得する。	80.0	ウェディング装飾のトータルコーディネートネットワークを構築し、空間を花で飾る技術を習得する。	83.8	チームワーク、コミュニケーション能力の重要性を理解する。	86.3	ウェディングの基礎知識を習得する。	86.3	84.1	3.4
6	フェーネラル実習	選択	花き装飾	30	林	8	デザイン力、提案力、応用力を習得する。	82.5	フェーネラル装飾のトータルコーディネートネットワークを構築し、空間を花で飾る技術を習得する。	82.5	チームワーク、コミュニケーション能力の重要性を理解する。	87.5	フェーネラルの基礎知識を習得する。	85.0	84.4	3.3
7	装飾技術スキルアップ実習	選択	花き装飾	45	吉田	8	フローリストとしての発想力や応用力を習得する。	82.5	フローリストとしてフラワーデザインに関する知識を習得する。	83.8	課題に取り組みこころでフローリストとしての作業所作を習得する。	87.5			84.6	3.4
8	2級園芸装飾技能検定対策実習	選択	花き装飾	30	林	1	2級園芸装飾技能検定合格水準の技術を習得する。	95.0	2級園芸装飾技能検定合格水準の園芸装飾に関する知識を習得する。	85.0	実試験内容を繰り返し制作練習することで装飾技術を習得する。	85.0			88.4	3.0
9	2級フラワー装飾技能検定対策実習	選択	花き装飾	60	吉田	8	2級フラワー装飾技能検定の合格水準の技術を習得する。	85.0	2級フラワー装飾技能検定合格水準に関する知識を習得する。	88.8	実試験練習を繰り返し行うことでフローリストとしての作業所作を習得する。	86.3			86.7	3.5
10	花修景実習Ⅲ	選択	造園緑化	30	新井	14	有料公園における花修景の植栽計画・年間管理を理解する。	86.4	グループでの実習作業を行う際に、コミュニケーションを取りながらチームワークの重要性を理解する。	87.9					87.1	3.4
11	造園施工・管理実習Ⅲ	選択	造園緑化	60	新井	9	造園植物(樹木、下草、芝生など)の生育特性を踏まえた管理方法を習得する。	87.2	造園施設(張芝、石積み、園路、黒石など)の施工方法を習得する。	86.1	グループでの実習作業を行う際に、コミュニケーションを取りながらチームワークの重要性を理解する。	87.2			86.9	3.1
12	造園総合実習	選択	造園緑化	90	新井	8	造園空間の計画・設計・施工までの一連の作業の流れを習得する。	88.8	1年次の各種授業での技術を各講として学んだ成果や専門科目で得た知識を基礎に総合化し、集約的に再習得する。	88.8	グループでの実習作業を行う際に、コミュニケーションを取りながらチームワークの重要性を理解する。	87.5			88.3	3.1
13	2級造園技能検定対策実習	選択	造園緑化	45	新井	5	学科試験の合格水準に達する知識を習得する。	85.0	実試験(製作等作業試験)に関し、規定時間内に規定の寸法どおりに完成させることができる。	89.0	実試験(判断等試験)に出題される樹木を判別することができる。	85.0			86.3	3.2
14	造園工学・施工論	選択	造園緑化	30	新井	8	2級造園施工管理技術検定の第一次検定について合格水準に達するよう知識を習得する。	82.5							82.5	3.0
15	SNSプロモーション	選択	マーケティング	30	井上	7	YouTubeの仕組みを理解する。	83.6	ビデオエディター等の動画作成アプリを使って動画編集ができる。	82.1	YouTubeプロモーション動画(作品)をアップロードする。	77.9			81.2	3.1



No.	授業名	履修区分	分野	時間数	担当教員	受講者数	到達目標①		到達目標②		到達目標③		到達目標④		到達度 総平均	授業満足度
							到達度 平均	目標	到達度 平均	目標	到達度 平均	目標	到達度 平均	目標		
16	キャリアデザインⅡ	必修	マネジメント	30	佐藤	21	83.1	金銭面での具体的な生涯設計を理解する。	採用試験（面接）への対応を知る。	80.5	建設的なディスカッションを体験し、協働の必要性を理解する。	83.5	労働法、給与、租税法（主に所得税）、資産形成に関する知識を理解する。	82.5	3.1	
17	基本簿記	選択	マネジメント	30	佐藤	11	82.0	簿記の基礎を理解する。	仕訳、転記、試算表作成を行える。	82.0	伝票処理を理解する。	80.0		81.3	3.2	
18	園芸文化研修	選択	文化・利用	30	今西	18	85.6	日本の園芸・庭園文化を体験し、自らの見識を養い理解する。	これまでに学んできた「花と緑」に関する知識や技能と園芸・庭園文化との繋がりを理解する。	86.1	園芸・造園の社会的意義を知り、長い歴史に培われて来た文化的慣習を理解する。	86.7		86.1	3.4	
19	盆栽実習	選択	文化・利用	15	福本	14	83.6	盆栽の歴史について知る。	盆栽の自然観と精神性に触れる。	84.3	盆栽の剪定、針金掛け、植え替えを習得する。	85.7		84.5	3.4	
20	植物管理基礎実習Ⅲ	必修	植物管理	30	前田	21	86.0	春・夏期における植物の種類による管理方法の違いを理解する。	春・夏期における灌水技術を習得する。	84.0	春・夏期における温室の管理技術を習得する。	85.0	上記の知識・技術を他者に伝達する能力を身につける。	84.6	3.2	
21	海外視察研修	必修	国際性	90	吉田	21	83.6	チェルシーフラワーショウはじめ英国の有名庭園や花き流通動向、最新のフラワーデザインを知る。	研修テーマを設定し、テーマに応じた調査ができる。	84.5	海外体験を通して国際感覚を養う。	79.0	研修内容をとりまとめ、報告することができる。	82.8	3.4	
22	インターンシップⅡ	選択	就業体験	60	各担任教員	20	85.5	社会人としての基本的礼儀、協調性、働く姿勢、実務を習得する。	研修の目的、内容を理解し、反省点を振り返る力を習得する。	86.1	研修を振り返り、研修内容をとりまとめることができる。	84.5		85.4	3.2	



## ① 『生産マネジメント実習Ⅱ』『生産課題解決演習Ⅱ』 花き生産流通分野

	R4年度		R5年度	
科目名	生産プロジェクト 実習Ⅱ	卒業研究・卒業制作Ⅰ (花き生産コース)	生産マネジメント 実習Ⅱ	生産課題解決演習Ⅱ
履修区部	選択	必修	選択	選択
開講時期	2年・前期	2年・前期	2年・前期	2年・前期
時間数	90時間	60時間	120時間	60時間
担当教員	白田浩通・井上守 前田宝秀	白田浩通・井上守 前田宝秀	白田浩通・井上守 前田宝秀	白田浩通・井上守 前田宝秀

## 〔授業編成の目的〕

・「生産マネジメント実習Ⅱ」は、1年生後期の「生産マネジメント実習Ⅰ」に引き続き春・夏の温室管理に加え、1年生の「花き生産実習」に併せて実施し、1年生に技術指導を行うことで、マネジメント能力の向上を目的とする。

・「生産課題解決演習Ⅱ」は、1年生後期の「生産課題解決演習Ⅰ」で行った調査研究を振り返り、追加調査や課題見直しなど「卒業研究・卒業制作」に向けて課題を再構築し、調査研究を行うことで課題解決力の向上を目的とする。

## 〔各授業の内容〕

## ●「生産マネジメント実習Ⅱ」

## 〔到達目標〕

- ① 施肥設計や品目・品種設定ができる
- ② 温室の栽培管理ができる
- ③ 1年生の指導を通じてリーダーシップを理解する
- ④ 作業内容のふり返りと必要な改善項目の報告ができる

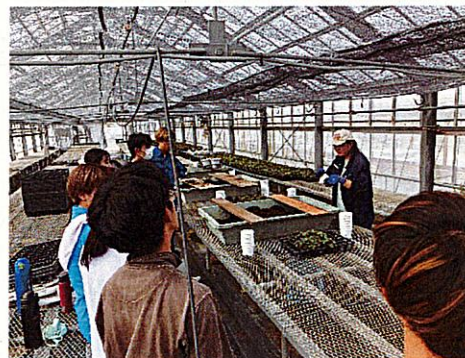
## 〔授業内容〕

各学生が各担当温室を管理することで、観察力・対応力を身に付ける。

1年生の「花き生産実習」と同時開催し、実習の指示や教員サポートを行い、リーダーシップを学ぶ。



播種培土の詰め方を指導する2年生



シクラメンの定植を指導する2年生

## ●「生産課題解決演習Ⅱ」

## 〔到達目標〕

- ① 適切な課題研究テーマと調査内容を選択できる



- ② 課題研究を通じて課題解決力を身につける
- ③ 課題研究内容を総括し、正しく伝えることができる

〔授業内容〕

生産・流通現場における課題の発見、課題解決に向けた調査研究計画の作成、調査研究の実行、調査研究結果の評価、を通じて、課題解決能力を身に付ける。

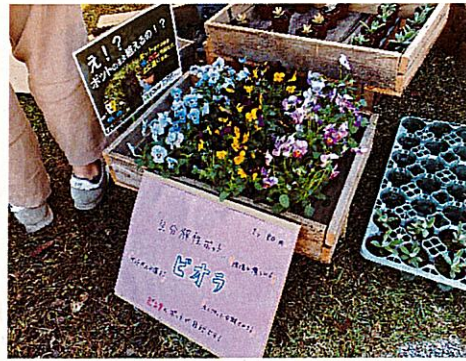
令和5年度の課題研究テーマは下記の通り。

『生分解性ポット』

生分解性ポットの耐久性調査と普及に向けての試験販売



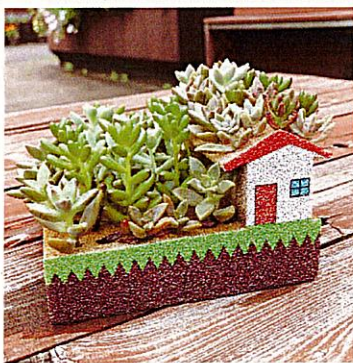
分解速度と栽培環境の関係を調査



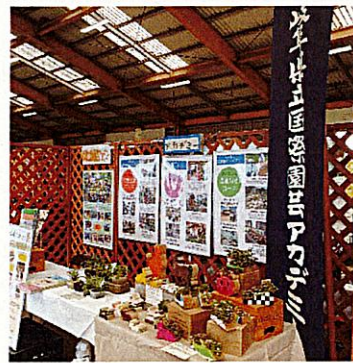
生分解性ポットに定植した苗物の試験販売

『珪藻土ウレタンを使用した園芸商品の提案』

珪藻土ウレタンを培地とした植物商品の開発



珪藻土ウレタンを用いた多肉植物商品



岐阜花き流通センター内覧会で商品紹介

『ダクト式パッドアンドファンの冷房効率の向上』

冷却パッドを2重とすることで冷却能力向上と生育に与える影響を調査



冷却パッドを2重にすることで冷却効率向上



栽培試験の様子



『自動灌水制御についての研究』

プールベンチを用いた苗物栽培における積算日射量に応じた自動灌水制御方法について調査



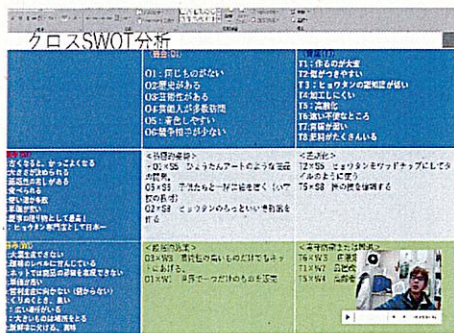
培養土からの水分消失量を調査



植物体のしおれと積算日射量の関係を調査

『ひょうたんを用いた商品開発』

岐阜の特産品のひょうたんをクロス SWOT 分析により商品開発を実践する



ひょうたんのクロス SWOT 分析



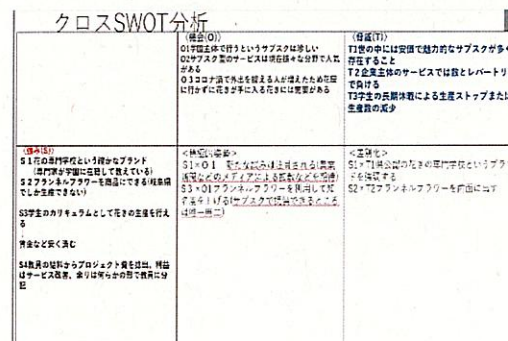
ひょうたんのくりぬき作業

『学園内のサブスク』

学内生産物販売をアカデミー職員に定期販売する事業を計画



学園内サブスクの プロモーション 動画



学園内サブスクのクロス SWOT 分析

『新規授業及びカリキュラム組み替えによる効果等』

従来の科目は、温室管理と課題解決に向けた調査研究を行う「生産プロジェクト実習Ⅱ」と「卒業研究・卒業制作Ⅰ」であったが、いずれでも温室管理と調査研究を行っており、科目名も分かりにくいことから、温室管理をや 1 年生の指導を行う「生産マネジメント実習Ⅱ」と調査研究に取り組む「生産課題解決演習Ⅱ」に組み替えた事で、授業内容が明確になった。

学生からも「温室での管理方法や、1 年生の指導など実践的な作業を通して学ぶことができました。」  
「課題が明確なため、取り組みやすかった。」との意見を頂いている。



## ② 『装飾技術スキルアップ実習』 花き装飾分野

	R4 年度	R5 年度
科目名		装飾技術スキルアップ実習
履修区部		選択
開講時期	—	2年・前期
時間数		45時間
担当教員		吉田 久美子・林 誠

## [授業編成の目的]

1年生の「フラワーデザイン実習Ⅰ・Ⅱ」や「園芸装飾実習Ⅰ・Ⅱ」で学んだ花き装飾の知識と技術を、確実に自分の物にすべく装飾技術を磨く。

また、フラワー装飾技能検定を受けない人にも対応できるよう、一人一人学びたい技術や知識に対して熟練技能士者など多くの先生から指導を得て、更に高い技術の習得を目的とする。

学んだ技術や知識は後期の卒業制作の個人課題につなげていく。

## [各授業の内容]

今年は、受講者全員が2級フラワー装飾技能検定を受験し合格する事を目標とするだけでなく、技能五輪出場をかけた予選にもエントリーし、高得点での合格を目指した。

2級フラワー装飾技能検定の課題花束、アレンジメント（トライアングュラー・ファン・ホリゾンタル）3パターン、ブーケ（キャスケード・クレセント）2パターンの計5種類の制作技術を極めるべく、実習を行った。

その他、技術やデザインの引き出しを増やすため、熟練技能者の指導が受けられる体制づくりを行った。



長縄先生によるアレンジメント（ファン）指導



長縄先生によるクラッツ花束



客員教授で岐阜県フラワー装飾技能検定協議会顧問の長縄先生からは、クランツという骨組みを使用した花束やS字ラインのホガースのアレンジメント制作手法といった1級フラワー装飾技能検定試験課題で扱う技術についてご教授いただいた。

また、非常勤講師である新山先生からは、2級フラワー装飾技能検定の課題制作に対する技術をより確かなものにするために細かい指導を頂いた。



新山先生によるアレンジメント指導  
(トライアングラー)



長縄先生によるアレンジメントデモンストレーション  
(ホガース)

上記のように、学生が個人で抱える課題や伸ばしたい分野・技術を集中的に学ぶ内容で授業を行った。

#### [新規授業及びカリキュラム組み替えによる効果等]

今年は受講者全員が技能五輪出場を目指し、予選で高得点を取るため2級フラワー装飾技能検定課題の制作技術を磨くことを課題としたが、学生が個別に学びたい課題を設定した際、熟練した技能を持つ多くの先生に指導を受けることができるため、一人一人の伸ばしたい分野に特化した指導・対応が可能となった。

昨年までは花き装飾コースの前期の選択授業は「2級フラワー装飾技能対策実習」が多くの時間を占めていたが、「装飾技術スキルアップ実習」を新設したことにより、2級フラワー装飾技能検定以外の技術習得も可能となった。

また、1級フラワー装飾技能検定試験課題の高い技術を見て制作することで技術やデザインの幅が広がり、新しいアイデアのきっかけになり、応用力や発想力を向上できる実習内容となった。



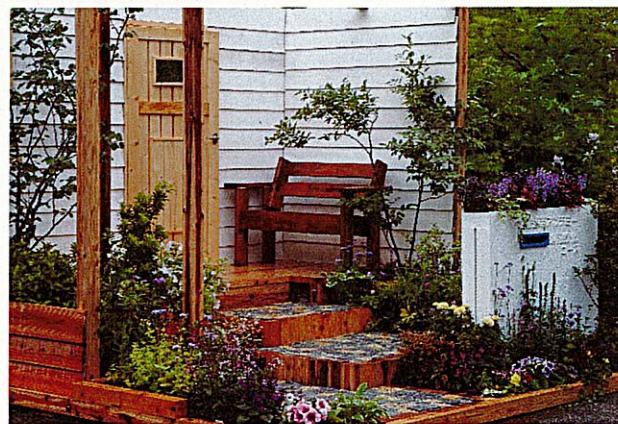
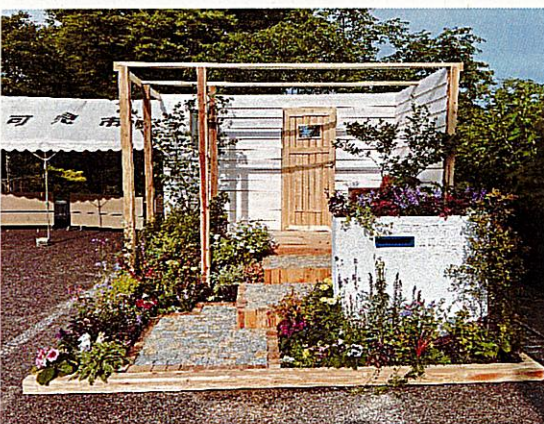
## ③ 『造園総合実習』 造園緑化分野

	R4 年度	R5 年度
科目名	造園計画演習	造園総合実習
履修区部	選択	選択
開講時期	2年・前期	2年・前期
時間数	30時間	90時間
担当教員	相田 明・新井 俊宏	新井 俊宏

## [授業編成の目的]

- ・ R4年度までの「卒業研究・卒業制作Ⅰ」と「造園計画演習」を統合し、造園計画、設計、施工、管理までの流れや繋がりについて習得することを目的としている。
- ・ 「造園施工・管理実習Ⅲ」、「花修景実習Ⅲ」で習得した基本的な造園技術、植栽技法、管理手法などを「造園総合実習」に活かして制作を行う。

## [各授業の内容]



## ○なんじゃ祭「デモ・ガーデン」の制作

- ・ 住宅庭園の計画、設計について学んだ後、住宅のアプローチ空間のデモ制作に取り組んだ。
- ・ 学生各々が計画・設計案を作成、その中から1点を選定し、詳細設計を行った。



- ・なんじゃ祭までの限られた期間の中で効率的に作業を進め、チームワークを育むことができた。



#### ○ぎふワールド・ローズガーデン 実習フィールドの作庭

- ・公共の県営公園に関して学んだ後、各自で作庭案を作成。
- ・個人案は、現況分析、事例調査、計画をA3サイズ用紙4枚にまとめて整理し、成果報告書とした。
- ・1案を選定し、施工を行った。
- ・学外での公共空間での施工作业で安全面への配慮など注意すべきことを学んだ。

#### [新規授業及びカリキュラム組み替えによる効果等]

- ・従前は、「造園計画演習」で計画、設計を行った後、「卒業研究・卒業制作I」で施工を行っていたが、科目を統合することにより、計画、設計、施工までの一連の流れを習得することができた。
- ・個人の住宅庭園と不特定多数が利用する公共公園の造園空間のそれぞれの特徴、特性を理解することができた。
- ・制作においては、初めて行う施工作业も多く、技能を習得することができた。
- ・グループでの制作作業はチームワークとコミュニケーションの大切さを学ぶことができた。

## ④ 『基本簿記』 マネージメント分野

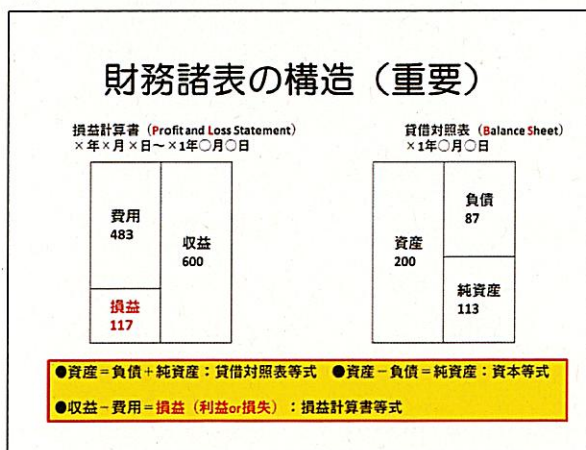
	R3 年度	R5 年度
科目名	基礎会計	基本簿記
履修区部	選択	選択
開講時期	1年・後期	2年・前期
時間数	30時間	30時間
担当教員	佐藤 智茂	佐藤 智茂

## [授業編成の目的]

- 簿記・会計は企業経営上必須の知識であり、業界業種や職種職務に関わらず求められるリテラシーであること
  - 学習範囲を日商簿記初級水準に設定（決算処理を除き、日商簿記3級にほぼ同じ）
- 学生が、花き園芸・造園に関する専門知識・技能と共に簿記・会計の基本を学び習得することで人材価値の向上を期待できること
- 個人（家計）の日常の金銭取引では意識しない複式（一つの取引を二つの視点で捉える）という思考を学ぶ良い機会であること
- 「起業・経営シミュレーション」の必修化と開講時期の変更（2年前期から1年後期へ）に伴い、同科目における会計（経営資源のカネ）部門の発展的学習と位置付け、2年前期へ開講時期は変更、内容を簿記（会計のコアスキル）に特化したことに合わせ科目名も変更。

## [各授業の内容]

- 第1回講義：簿記の基礎的知識（目的、5要素、財務諸表、仕訳・転記・試算表）
- 第2回～8回講義：勘定科目と仕訳（商品売買、現預金、債権債務、その他）
- 第9回講義：固定資産、減価償却
- 第10回講義：税、資本金
- 第11回講義：帳簿（仕訳帳、総勘定元帳）
- 第12回講義：試算表
- 第13回講義：伝票会計（三伝票制、仕訳日計表）
- 第14回講義：既習範囲復習
- 第15回講義：期末試験



（第1回講義で使用したスライド。左は財務諸表のモデル、右はモデルと各要素の増減関係を示した図）

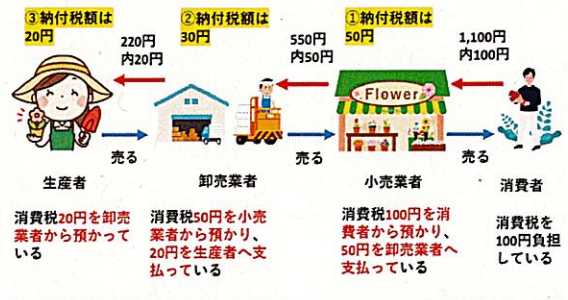


## 租税公課（費用）

- ・簿記会計上、税金には2つの種類がある
  - 費用として処理できる税金
  - 費用として処理できない税金
- ・学ぶのは、**費用として処理できる税金**
  - 固定資産税、印紙税
  - 租税公課（費用）として処理

## 消費税のしくみ

事業者が納めた消費税額の総額（①+②+③）は100円、これは結果として消費者が負担していることになる。



（第10回講義で使用したスライド。左は租税公課の説明、右は消費税の仕組みを示した図）

[新規授業及びカリキュラム組み替えによる効果等]

- 市販テキストを活用
  - 授業はテキスト内容を基礎として進行実施、また説明内容（作成スライド）もテキスト内容を基礎として更に一段分かりやすく実施
  - テキストの問題の解答用紙を作成して事前に配布することで、自習に対する障壁を低く少なくする効果を狙った
- 以下は学生の授業に対するコメント
  - 復習用のプリントが凄く助かりました。ありがとうございました！
  - 簿記の必要性について理解し、仕訳や伝票処理などできるようになりました。
  - 初めはしどろもどろでしたが、最終的には知識がついたので良かった。
  - 最初は難しかったけど、テスト前に復習すると今までやってきた事を理解することができました。
  - 簿記について理解とお金の扱い方を学べた。
  - 簿記むずかしいです。
  - 少しわかりにくかった。
  - パワポも見やすくてわかりやすかったです。もう少し自分達で問題を解く日があった方が良くんじゃないかなと思いました。

### 【担当教員としての所感】

- 「難しい」という感想を抱く学生は毎年必ず居り、授業上の工夫と共に学生の自習を促す工夫が必要。\*例えば前回授業内容の小テストを予告実施する、など
- 授業中に問題を解答する時間を今以上に設けた場合、その分は内容説明に用いる時間を削ることになるため、現状では自習で問題を解答して貰うこととしている。
- 簿記における「複式」という概念は、日常生活で意識することがほとんど無いことも「難しい」という感想を抱く理由の一つであると思われる。これまで同様に今後も現実の生活で体験することに引き付けて説明することを一層意識する。\*例えば、卒業後に就職して自動車をローン（借金）で買うということは、自動車という資産を手に入れるとともに、ローン（借金）という負債（≒負の資産）も手に入れることだ、など



令和6年度 ぎふワールド・ローズガーデン (WRG) 内 花トピア・実習フィールド活用計画

資料7  
単位：1単位

分野	No.	時期	科目名	区分	担当	授業 時間数	利用授業 時間数	利用率	具体的な授業内容	WRG活用により 期待される効果	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月										
1 花き生産	1	1年前期	栽培・生産論	必修	臼田	30	4	13.3%	病害虫の特徴の理解と診断方法(WRG内の病害虫の調査・診断)の習得。	公園管理で問題となる病害虫の観察や対策を現地で学ぶことができる。			4																
	2	1年後期	イベント販売実習	必修	井上	15	8	53.3%	WRG内における販売実習を通じた消費者の動向調査。	本校で生産・制作した商品を直接消費者に販売することで、商品企画・制作・販売・分析といった一連のビジネス活動の流れを学ぶことができる。		8						(※) 16											
	3	2年前期	生産課題解決演習Ⅱ	選択	臼田	60	8	13.3%																					
	4		基礎育種学	選択	前田	30	4	13.3%	WRG内における、突然変異個体の探索。	豊富な植物種を有する公園において技術わり個体を探索することで、育種における選抜眼を養うことができる。		2																	
2 花き装飾	5	1年前期	園芸装飾実習Ⅰ	必修	吉田	30	4	13.3%	WRG内の装飾事例の観察・調査。	公園内の壁面装飾や季節感のあるディスプレイの事例を学ぶことができる。また、来園者の反応から、印象を与える園芸装飾の特徴を知ることができる。	4																		
	6		フラワーデザイン実習Ⅰ	必修	林	60	56	93.3%		多くの来園者の目に留まることにより、緊張感をもって制作することができる。			32	24							32								
	7	1年後期	フラワーデザイン実習Ⅱ	選択	林	60	56	93.3%	花トピア内研修室等での作品制作及び作品展示・求評。(個人課題・グループ課題)	また、作品に対する意見や感想を学生にフィードバックすることで、来園者目線での評価を知ることができ、反省点や改善方法の検討、新たなアイデアの着想など、学修効果の更なる向上が期待される。					夏														
	8	2年前期	ウェディング実習	選択	林	30	16	53.3%					16																
	9		フラワー装飾演習	選択	林	60	16	26.7%		来園者へ植栽や管理技術を見て頂くことにより、学生のモチベーションが向上する。						季		4	8										
3 造園緑化	10	1年後期	花修景実習Ⅱ	必修	相田	30	12	40.0%	実習フィールドにおいて、一・二年草や球根、宿根草を活用した植栽計画・管理方法の習得。	県営公園内の庭園空間の管理手法について学ぶことができる。																			
	11		造園施工・管理実習Ⅱ	選択	新井	60	8	13.3%	実習フィールドや世界のバラ園前、花トピア前庭園において、管理手法や施工法の習得。																				
	12		花修景実習Ⅲ	選択	新井	30	30	100.0%	実習フィールドにおいて、一年草を中心とした植栽計画・管理方法の習得。	園内の花壇状況やイベント等を考慮し、実習フィールドの花壇をいっお客観に昇っていただくか、そのためにはどのような管理をするか、公園全体の中での管理手法について学ぶことができる。	4	14	4				8												
	13	2年前期	造園施工・管理実習Ⅲ	選択	新井	60	4	6.7%	実習フィールド内庭園の管理手法や施工法の習得。	県営公園内の庭園空間の管理手法について学ぶことができる。		4																	
9 文化利用	14		造園総合実習	選択	新井	90	44	48.9%	実習フィールド内庭園の与えられた敷地空間(約10m)において、計画・設計から施工までの一連のプロセス習得。	不特定多数の人が利用する県営公園内では、快適性や安全性確保に配慮しなければならぬ。そのための設計・施工の方法を学ぶことができる。	4	4																	
	15	2年前期	盆栽実習	選択	井上	15	15	100.0%	花トピア内研修室での実習及び販売展示スペースにおける制作物の展示・求評。	販売展示スペースで、学生の制作した盆栽を一定期間展示することで、学校のPRがでできる。また、作品に対する意見や感想を学生にフィードバックすることで、来園者目線での客観的な評価を知ることができる。	15							(※) 16											
10 課題解決	16		卒業研究・卒業制作【花き生産】	必修	臼田	240	8	3.3%	販売実習を通じた消費者の動向調査。	本校で生産・制作した商品を直接消費者に販売することで、ビジネス活動の一連の流れを学ぶことができる。																			
	17	2年後期	卒業研究・卒業制作【花き装飾】	必修	吉田	240	32	13.3%	花トピア内研修室等での作品制作及び作品展示・求評。(個人課題)	多くの来園者が訪れる施設の園内装飾デザイン・施工管理、撤去と一連の流れを学ぶことができる。また、来園者の目に留まることにより、緊張感をもって制作することができる。											32								
	18		卒業研究・卒業制作【造園緑化】	必修	相田	240	44	18.3%	グループ課題の実施(WRG内での作業)。	来園者へ制作した庭園を見て頂くことにより、学生のモチベーションが向上する。											40	4							
						WRG利用時間計	369	12.8%												23	30	58	24	0	64	64	48	68	
						年間開講時間計	2,880	(※)WRGでの販売は2日実施するが、学生は2回に分かれ、どちらか1日に出																					

(※) WRGでの販売は2日実施するが、学生は2回に分かれ、どちらか1日に出